

10月15日（火）、4年3組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は「作ろう！ 『ショートショート』」です。友達と話し合いながら、選んだ不思議な言葉から想像を広げ、物語を書くことが単元の目標です。今回の授業では、不思議な言葉から想像をどれだけ広げられるかがポイントとなります。

前時に、いろいろな物の名前と、そこから思い浮かぶ言葉を書き出していました。その中から、日常ではありえない組み合わせで言葉を組み合わせて不思議な言葉を作りました。児童からは、「赤い」＋「パンダ」や「ごつごつした」＋「水」などの組み合わせが発表されました。「大きい」＋「大根」のように、ありそうな言葉は作らないように確認しました。



【言葉を組み合わせる様子】

次に、各自で不思議な言葉を考えました。言葉をどんどん組み合わせしていく児童もいれば、「全然思いつかない」と考え込む児童もいました。そこで、隣同士で見合い、相談できるようにしました。「かわいいそうきん」と書いた友達に対し、「それは現実にはありそうだね」と、一緒に考えるペアもありました。このような日常にありそうな言葉は、他の言葉を組み合わせるように助言しました。



【言葉を見合う児童】

次に、作った不思議な言葉から想像を広げる練習をしました。教師が、冒頭で発表された「ごつごつした水」を取り上げ、「どんなことが想像できますか」と投げ掛けました。児童からは、「硬い」「飲むと口の中が痛いかも」「喉がつまる」といった発言がありました。教師が、「持ち運びは便利かな」とよいところを言うと、「こぼれない」、「食べるのかな」と、さらに想像を広げることができました。このように、不思議な言葉からは、長所と短所の両方を想像することを押さえました。

最後に、タブレットの協働学習ソフトを使って、まずは自分が作った不思議な言葉から想像を広げました。どんどん想像を広げられる児童もいれば、なかなか広げられない児童もいました。そこで、共有機能を使って、グループの友達が作った不思議な言葉について考え、意見を伝え合いました。このようにして、様々な角度から考えられるようにしました。



【想像したことを書き込む児童】

このように、物語を書く上で大切なことは、書くための材料を集めることです。今回は不思議な言葉から想像を広げ、その言葉がどんなものであるか、どこで見られるか、どんな長所や短所があるかなど、考えたり話し合ったりして、材料をたくさん集めることができました。後は、作文の決まりを守りながら、物語を書き切るだけです。どんな物語ができるか楽しみです。